

1 平成 21 年 3 月期の連結業績（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（百万円未満切捨て）

（1）連結経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21 年 3 月期	83,976	1.5	4,368	7.6	4,503	8.6	2,565	3.6
20 年 3 月期	82,707	4.4	4,060	5.3	4,147	4.1	2,476	4.4

	1 株当たり 当期純利益	
	円	銭
21 年 3 月期	160	39
20 年 3 月期	154	83

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
21 年 3 月期	73,447	26,719	35.1	1,709	77
20 年 3 月期	73,045	24,877	33.5	1,528	07

（注） 連結対象会社は 5 社

2 平成 22 年 3 月期の連結業績予想（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通 期	78,000	7.1	3,200	26.7	3,300	26.7	1,800	29.8

上記の予想は本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

3 当期の事業の概況および次期の見通し

（1）当期の事業の概況

重仮設事業では、年度前半における鋼材価格の高騰や年度後半における実体経済の急激な悪化という、収益確保がたいへん厳しい状況において、鋼材の安定供給に努めてまいりました。また、工場における作業の効率化を推し進め、並行してコスト削減と商品の品質向上を図りました。

補強土事業では、主力のテールアルメ工法を中心に、ここ数年、受注拡大に向けたスペック営業に注力しておりましたが、その効果もあって、事業環境が厳しい状況の中、売上高は比較的順調に推移しました。

管理面では、重仮設および補強土の両事業において培ってきた情報収集力、商品力、技術力を結集し、総合力を発揮できるよう事業本部制を廃止しました。そして各本支店では、あ

らたに補強土橋梁部を設置し、重仮設と補強土の両事業を融合し、顧客に対して今までにない新たな提案をしていくための体制を整備いたしました。

また、6月には、経営基盤の強化を図るべく事業領域の拡大を目的に、軽仮設事業を展開するテックビルド株式会社の発行済株式の全株を取得いたしました。

なお当社は、お蔭をもちまして平成20年11月25日に創業70周年を迎えることができました。

(2) 次期の見通しと課題

政府の経済対策によって、建設業界では公共工事の増額を期待する面もありますが、その執行時期や内容については不透明感が拭えず、景気が短期に浮揚するとは考えにくい状況のまま推移するものと思われます。

こうした事業環境の中、強固な経営の基盤作りを目指し、個々の社員が顧客視点で考え抜く会社風土を醸成して組織全体の対応力を向上させてまいります。過去の成功体験に留まらず、常に新しいヒロセを打ち出せるよう取り組んでまいります。また、信用不安が深まる中、キャッシュマネジメントの重視と資産効率の向上、与信管理体制の強化を進めてまいります。

4 役員の異動(平成21年6月26日付)

新任取締役候補

取締役 太田 満 (現 常務執行役員 営業本部副本部長兼業務部長)

取締役 寺田 孝則 (現 常務執行役員 営業本部名古屋支店長)

以上